

Q&A

栄養教育実習の
「こんなときは、どうしたらいいの？」
学生の素朴な疑問に答えます。

Q1 「食育」と「食に関する指導」の違いが、よくわかりません。どのように説明すればよいのでしょうか？

「食育」は、食に関する知識や実践力を身に付け、望ましい食習慣の定着をめざすものです。学校では、食育の目的を達成するため、給食の時間や教科等の時間に、学校給食を教材として「食に関する指導」を行っています。このように学校においては、「食育」は『目的』、「食に関する指導」は『手段や方法』と整理しています。

Q2 事前打合せで、担当学年と研究授業(査定授業)のテーマが決まり、学習指導案を作成しました。その内容について指導教員に添削していただきたいのですが、どのようにして連絡をとればよいのでしょうか？

基本的には、指導教員と相談して連絡方法を決めます。ファクスやメール等でやり取りすることが考えられます。指導案等の資料を送る際には、必ず送付した旨の連絡を入れておくことが大切です。

Q3 事前打合せの際に、指導教員から「せっかくの教育実習なので、研究授業の学級活動は、チーム・ティーチングではなく、一人で授業をしてください」と言われました。実習生が一人で、学級活動を実施してもよいのでしょうか？

実習校の指導教員は、実際の児童生徒を前にした授業実践をより長く経験させたいという思いからの発言であると考えられます。しかし、本来、栄養教諭と学級担任、教科担任でチーム・ティーチングにより食に関する授業を行う目的は、栄養教諭が有する食に関する専門性を活用し、学級担任等に不足する食に関する専門性を補完・支援することです。一方、個々の児童生徒の実態については、学級担任はよく把握していますが、栄養教諭は把握できていません。つまりチーム・ティーチングは、お互いの不足分野を補い、得意分野を生かすという相乗効果を期待した授業形態です。このことから、研究授業(査定授業)では、チーム・ティーチングの授業形態で学生の不足している部分を学級担任が補完・支援することが望まれます。

Q4 授業での「質問」と「発問」の違いがわかりません。

「質問」は児童生徒に尋ねたとき、一問一答で終わるような問いかけです。「発問」は、児童生徒が考えたり気付いたりしたことを答えるもので、答えは1つではありません。「はい/いいえ」などの答えやすい「質問」をすると、全員が授業に参加しやすいという効果は期待できますが、それだけでは児童生徒の思考は深まらず、学習意欲の向上が期待できません。児童生徒の思いや考えを引き出すような「発問」の工夫が必要です。